

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2016年1月号 通巻85号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2016

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

シチズンサイエンスの試み

東京タヌキ探検隊！は世界的な先駆者だった！



(左)第9回ニコニコ学会βのオープニングの様子。壇上右が代表の江渡浩一郎氏。そのすぐ右におなじみのタヌキのイラストが表示されています。客席にはセーラー服おじさんの後ろ姿が！

(右)他に写真がなかったので、マッドネスマックス登壇者のロゼット(徽章)を。

全世界のタヌキスキーの皆様、明けましておめでとうございます。東京タヌキ探検隊！を今年もよろしくお祈りします。

またまた行ってきました

2015年12月19日、第9回ニコニコ学会βが開催されました。宮本はマッドネスマックスに登壇し、例のごとく3分の持ち時間でプレゼンをしてきました。当日の全体の録画はニコニコ動画でも無料公開されていますのでご覧ください(<http://bit.ly/nng9timeshift>)。

この時のプレゼンでは「シチズンサイエンス」「オープンサイエンス」といった言葉を使いましたがここでもう少し解説しましょう。「シチズンサイエンス」とは全体または一部を市民(非専門家)が担うサイエンスのことです。「オープンサイエンス」とは一般に開かれていると言う意味でシチズンサイエンスを含む他、研究課程・成果の公開、研究データの共有(これらには無償という意味合い

もある)など広範な概念を持つものです。また、これらには「インターネットを利用している」ということが当然の前提になっているようです(同様の試みはインターネット以前から存在していたので)。

東京タヌキ探検隊！はまさに「シチズンサイエンス」「オープンサイエンス」の実例と言えるものです。もっとも、タヌキの目撃情報収集を始めた1999年当時はそのような言葉は存在しませんでした。パソコンの家庭普及率がまだまだ低い時代だったのです。似たようなものとしては「SETI@home」(地球外知的生命体からの信号を探すプロジェクト)など分散コンピューティングの試みが行なわれていた程度でした。つまり東京タヌキ探検隊！は世界的にも先駆的なものだったのです。しかもアマチュアの発想と実践であるというのは珍しい例と言えるでしょう。シチズンサイエンスやオープンサイエンスの実例として紹介されるのは国外のものばかりですが、日本にもそれ

らに負けない好例があることをアピールしたいと思います。

これからも調査は続きます

タヌキの目撃情報収集の開始からは16年経過しましたが、「東京タヌキ探検隊！」という名称が登場したのは実は10年前、2006年のことでした。これだけの長期間アマチュアプロジェクトがうまくいっているのは皆様からの支持のおかげだと思います。東京タヌキ探検隊！の活動は今後も続きます。タヌキ、ハクビシン、アライグマ、アナグマの生息数や分布がこれからどのように変化していくのか。調査研究のテーマに終わりはありません。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>